

みんなで賛美、宣教150年記念聖歌

セシリア丸山悦子(宣教150年実行委員)

2023年2月、「宣教150年を迎えるにあたり、北海道教区の聖歌をご一緒に作りませんか？神様がともにいてくださって、これからもともに歩んでいきたい、こんな気持ちになることができる聖歌を作りたいので、歌詞を公募します。」との呼びかけをしましたところ、教区内外から18通のご応募がありました。実行委員会内の記念聖歌作業チームでは、宣教150年記念礼拝でみんなで歌って神様を賛美したい、ということはもちろんですが、その先もずっと歌い続けられる聖歌、こどもからご高齢の方までみんなが口ずさめる聖歌、北海道の人はもとより、他教区の人々にもわかりやすい聖歌を作ろうということを考えて、みなさんからいただいた言葉、フレーズ等すべてをひとつひとつ味合わせていただきました。

それぞれに共通していたのは、北海道の大地、気候に触れている点でした。言葉を選び、それらを一つの聖歌にまとめていく作業が繰り返されました。飯野正行司祭にまとめていただきましたが、時にはほぼ最終稿に近づいたものをもう一度検討しなおすという場面にも遭遇しました。一人の作品ではなく、みんなの声を集めて聖歌をつくるというプロセスを大切に、北海道の大地の美しさ、厳しさ、恵みや、150年の歴史の重み、痛み、苦しみも含めつつ、これからもともに歩んでいくという歌詞が出来上がりました。その後、作曲を函館聖ヨハネ教会信徒の佐々木茂さんをお願いしました。メロディーとの一致、言葉の抑揚、アクセントと音程の関係にも配慮して、さらに歌詞や曲の一部変更も行われ、ようやくみなさんにお届けできるようになりました。

タイトルでもあり、歌詞の中でも繰り返される「ピッカ・レラ・モシ」は「美しい風の大地」、モシは「モ：静かな、平安な、シ：地、山、大地」という意味があります。北海道の宣教の灯(ともしび)が和人にもアイヌの人々にも灯されたことを忘れないでいたいと思います。

大斎節中に、教区内全教会へ150年記念聖歌の歌詞と楽譜、音源をお届けします。いきなり楽譜を見て歌ったり、弾いたりするのではなく、まず歌詞を声に出して読んで味わい、音源を何度も聴いて味わい、聖歌の雰囲気を感じてから歌ってみてください。北海道の美しい風の大地を感じて口ずさめる聖歌となることでしょう。7月の記念礼拝の時には、みなさんでこの聖歌を歌って神様を賛美しましょう。ハレルヤ